

テーマ：縄文遺跡群（実践校）

釧路管内 白糠町立茶路小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、校区内にある縄文遺跡から出土した石器や土器に触れ、縄文時代に北海道で暮らしていた人々の生活様式や文化について調べるとともに、縄文文化と自然との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

縄文遺跡群について、縄文時代の遺跡や資料をもとに自ら設定した課題を解決する活動を通して、縄文時代の人々の生活が自然環境と強く結び付いていたことの意義について理解するとともに、縄文時代の生活様式等と現代の生活とのつながりについて具体的に考え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

外部講師による縄文時代の人々の暮らしや文化に関する講話を聞いたり、北海道・北東北縄文遺跡群の動画を視聴したりして、児童の縄文遺跡群への興味・関心を高め、一人一人が縄文文化と自然との関わりについて探究的な課題を設定しました。



【外部講師による講話】

(2) 情報の収集

本やインターネットを活用し、縄文時代の生活様式や文化等について情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報について、思考ツールを活用して「衣・食・住」、「文化」などの視点で整理・分析したり、児童同士で内容について交流・協議したりし、縄文時代の人々の生活が自然環境と強く結び付いていたことの意義などについて理解を深めました。



【1人1台端末で交流・協議する様子】

(4) まとめ・表現

一人一人が作成したスライドを用いて発表し合うことを通して、縄文時代の生活様式等と現代の生活とのつながりについて具体的に理解を深めるとともに、これからの自分たちの生活や行動の在り方を考えることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・1人1台端末を活用し、児童一人一人の興味や関心に応じた課題を設定したり、課題の解決に向けて取り組んだりできるよう、活動の複線化を保障しました。
- ・課題の解決に向けて、児童が協働しながら情報を整理したり分析したりできるよう、思考ツール等を選択させ、自由に情報を交流する時間を保障しました。

実践の振り返り

- ・外部講師を活用したり、校区内で出土した石器や土器を教材にしたりしたことにより、児童の地域や縄文時代に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・自分が住んでいる地域の郷土資料館を訪れたり現地調査を実際に行ったりすることにより、探究的な課題設定をすることができ、自分が住んでいる地域や北海道への愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。